



かとう しょうご
加藤 将伍

給食センター・保育所の廃食油を対象にリサイクルに関する協定提携

廃食油量と見込まれるCO₂削減量は

答弁 年間2,040リットル、レジ袋6,300枚分削減見込み

動画で一般質問を
ご覧いただけます



問 今後、各家庭から排出される廃食油についても回収・リサイクルを行っていく考えは。

答 近隣ではスーパーマーケットで回収・リサイクルする事例あり。研究の上、推進していきたい。

脱炭素経営支援体制構築モデル事業に県内初採択

問 本事業は、市・商工会・信用金庫の連携が強み。共同申請に当たり特に考えが一致した点は。

答 環境負荷を低減しつつ、稼ぐ力の向上を図り、脱炭素と経済活動がリンクした企業の活性化。

問 地元信用金庫がタッグを組んでいる観点から、積極的な脱炭素経営企業へ融資条件の緩和や金利優遇措置が期待される。連携に関する見解は。

答 設備投資など資金面の支援も重要。共同申請者の金融機関とともに優遇措置を研究していく。

小・中学校におけるBLS（一次救命処置）の推進

問 学校における心停止の5割超はグラウンドで発生。1秒を争うこと、かつ休日夜間を想定し、いつでも利用可能なAEDを屋外に設置する考えは。

答 心停止から1分ごとに7～10%生存率は低下。救命率向上に向け、屋外設置を検討していく。

問 10月、公共施設10か所に設置されたオートショックAED。メリットと設置拡大の考えは。

答 迅速確実であり救助者の精神的負担も軽減される。今後、更新に合わせ設置拡大に努める。



なりた なおこ
成田 奈緒子

未来世代への教育支出は重要！入学前に通学かばん選択肢の周知を！

通学かばん無償提供の考えは

答弁 軽量大容量かばんの使用も可能なことの周知を図る

動画で一般質問を
ご覧いただけます



問 就学援助制度ではまかなえないランドセル購入費。児童の身体的・保護者の経済的負担軽減に通学用リュックの無償提供や購入費補助の考えはあるか。ランドセル以外の通学かばんの選択肢があることの周知も入学前に必要では。

答 現在考えはないが、学習環境の整備に努める。4校でランドセルの指定はなく、定例校長会議で周知を図る要請をした。

健康観察アプリLEBER for Schoolの導入効果

問 保護者、教師とも負担が減り子どものための時間に充当していると考えるが活用状況は。

答 送信対象者の範囲が細かく設定でき、ファイル送付も可能。「こころとからだの健康観察」機能は研究中。

移住支援制度と空き家活用について

問 制度の実績は。日高を知る自然体験と宿泊イベントの検討と高麗駅西側を移住重点区域とし、空き家利活用にお試し住宅と移住コーディネーター・サポートセンターの設置が有効では。

答 子育てファミリーウェルカム事業補助金利用累計人数は407人（達成率74%）。お試し住宅も宿泊イベントも課題があり実施は困難。



立山市の「通学用リュックサック」